

子ども食堂・子どもの居場所って、 どんな場所？

子ども食堂とは、子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂として開設されたことが最初といわれています。活動内容には明確な基準が定められていないため、「地域食堂」や「みんなの食堂」といった名称の食堂もあります。子どもたちを中心に地域の人々が食を通じてつながりを育む取組みとして広がっています。

2012年

以後「子ども食堂」と呼ばれる活動が発足

2015年

札幌市で最初の子どもの食堂が開設。翌年2016年には、全国で約300か所に拡大

2021年～

札幌市内で約70か所が活動。全国では約6,000か所*に拡大し、コロナ禍においても新規開設が増加している。

※参考：「NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ」
<https://musubie.org>



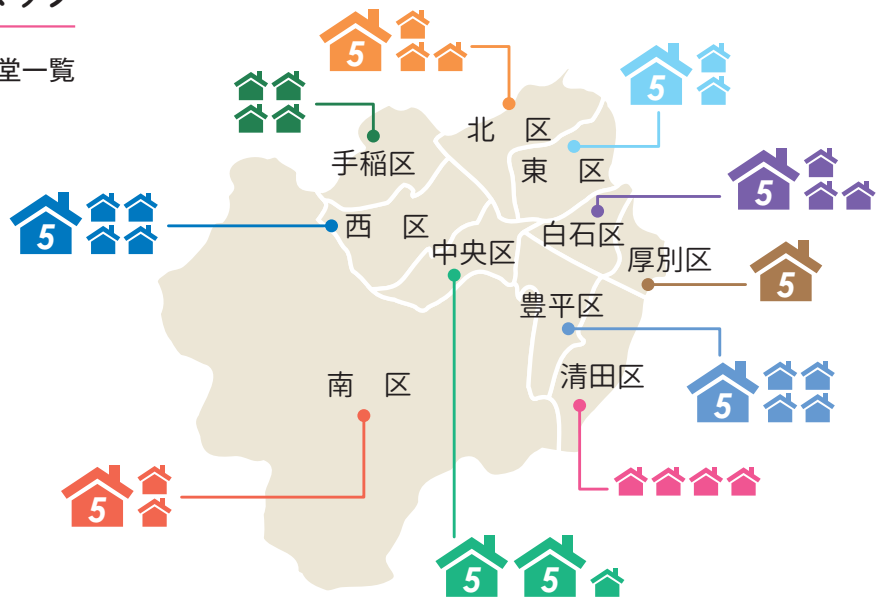
増加傾向にある子ども食堂の箇所数

子ども食堂の名称は、報道やメディア等を通じて、少しずつ浸透してきました。札幌市内の子ども食堂の数は2018年には50か所程度でしたが、現在は70か所程度に増えています。全国の子ども食堂の数は、2021年には6,000か所を超える事が分かっており、2016年から2021年の5年間で18倍以上増加しています。

札幌市内の子ども食堂点在マップ

札幌市のHPに、市内の子ども食堂一覧の情報などを掲載しています。

運営主体は、NPO法人や任意団体、企業、福祉施設など様々です。

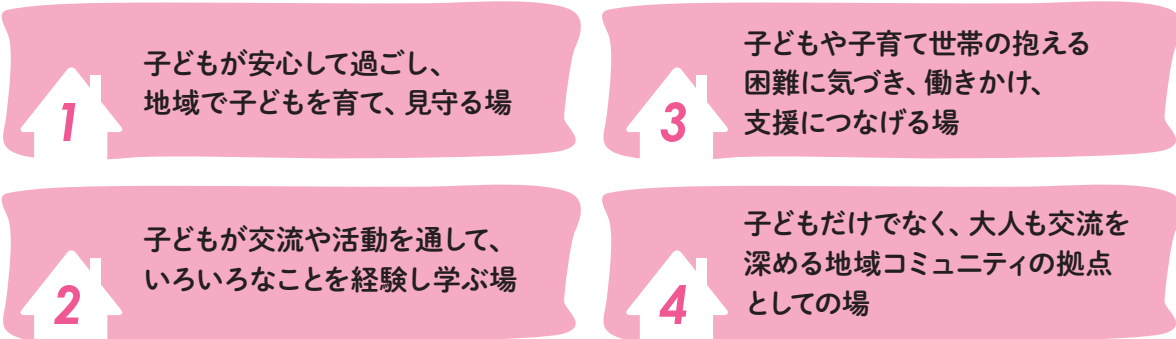


札幌市公式ホームページ内の「札幌市子ども食堂等一覧」で所在地を確認することができます。
<https://www.city.sapporo.jp/kodomo/torikumi/ibasho/documents/ichiran.pdf>



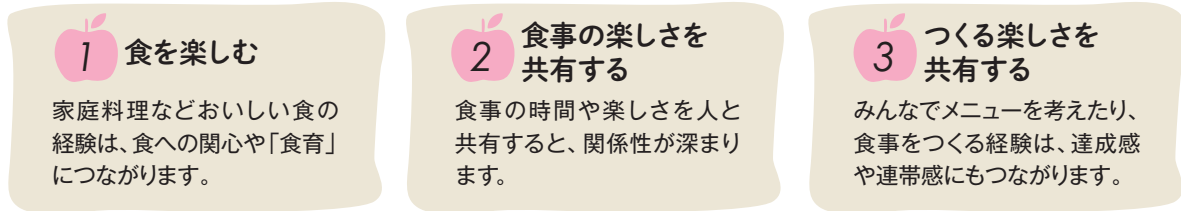
子ども食堂・子どもの居場所の機能と可能性

子ども食堂・子どもの居場所の機能とは？



～子ども食堂のキーワード「食」について～

「食」は生きる基本＝衣食住の一つですが、なぜ「食」なのか、活動を支える3要素をまとめました。



子ども食堂・子どもの居場所の可能性

地域の大人や子どもの交流と活動の場として、子ども食堂・子どもの居場所は多くの可能性を秘めています。

子ども

- ・安心できる居場所
- ・遊び、体験
- ・食育、食事の支援、孤食防止
- ・多様な学び（人・交流・生活習慣・価値観・将来のイメージ）
- ・学習支援
- ・悩みや不安の共有、相談支援

子育て世帯

- ・保護者の休息
- ・食事の支援
- ・様々な人との交流
- ・情報収集
- ・フードバンクやおすそわけ会
- ・悩みや不安の軽減、相談支援

地域

- ・地域の見守り・支え合い
- ・多世代交流の場
- ・情報共有・勉強会
- ・コミュニティ拠点
- ・子どもの参加
- ・社会参加の場 ・まちづくり
- ・市民活動の活性化

